

1. はじめに

今回指導要領改訂で最も大きく変わったのは地理分野・「地域の規模に応じた調査」である。現行のh10指導要領では(1)身近な地域の調査→(2)都道府県の調査→(3)国の調査という、自分の周囲から地域の規模を広げて2~3の事例を取り上げる範例学習で構成されている。今回の改訂では、日本は各地方区分ごとに7テーマ、世界は6大州のすべてを取り扱い、順序も世界→日本→身近な地域という真逆の扱いになった。「動態地誌」という言葉で網羅的な地誌学習ではないことを謳っているが、授業時数の増加もあって25年前の詰め込み地理に復帰したととらえる人が多いだろう。

問題なのはこれほど大きな転換が、現場で教える立場に与える影響をまったく考えずに行われていることである。h10改訂に謳われた「網羅的な暗記の地理から、多様な地理事象認識の座標軸をつかませる範例学習への転換」という洪澤文隆専門委員主導による改革のどこが良くなかったのか。どこを継承してどこを改めるのか、文科省サイドからの検証と反省を私は聞いたことがない。現場サイドで最も困るのは、理念なきこの転換が「暗記の社会科でよしとする教員」「つまらないけど受験のために我慢して覚える生徒」を存続させることである。

現行指導要領が完全実施されて3年以上たっても、網羅的な地理を行っている教員が何人もいた。「どの県や国をなぜ、どう取り上げるのか」という研修を教育研究会で積極的に行っただろうか。今回の改訂は、一生懸命授業改善を行ってきた先生がハシゴを外された思いを持つのではないか。現行指導要領導入期に社会科部長という立場にあった自分としては、現行地理の学習の仕方をきちんと総括する責任を感じて以下の実践記録を示すことにした。

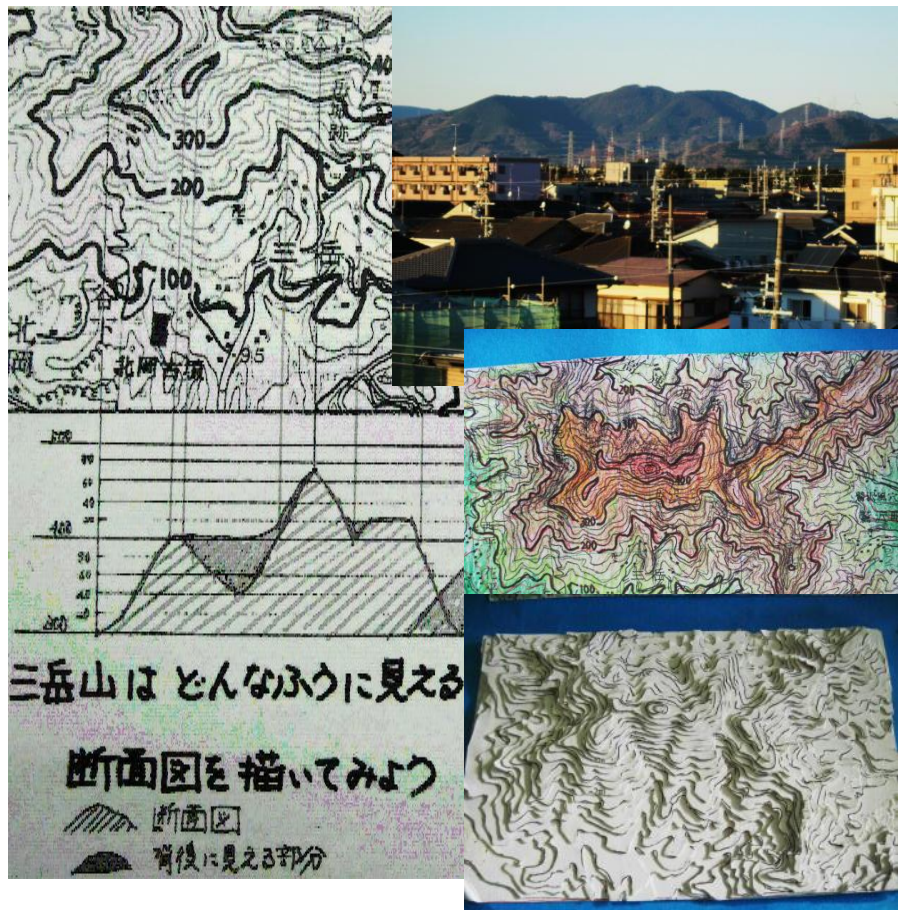
2. 私の地域調査の実践

(1) 身近な地域の実践～県西部地形図と「のびゆく浜松」で三岳山周辺の地形を使った学習～

開成中・三方原中・神久呂中に勤務しているときは、4fから見える北遠の山並みの中で一番目立つ三岳山を使って等高線と断面図を作り、発展課題として立体地図模型を作る実践を行っている。1学期最後の7月にのびゆく浜松p4~5と地形図を使って読図・分布図作成などを行い、夏休みの全員課題として「身近な地域調査のレポート」(地形図を使ってテーマを見つけ、必ずフィールドワークを行う)、選択発展課題として立体地図模型づくりを行っている。三岳山は、山の形が美しく好材料と思う。湖東中ならば根本山が最適と思う。

↓地形図ワークシート

三岳山・着色地形図・立体地図↓



(2) 都道府県の調査～静岡と山形を取り上げることで「高度成長」を地理的認識の座標軸にする学習～

2 ないし 3 の県を選んで学習する際、その学校がどこを選ぶか、どう学ばせるかが、この単元の最も大切な視点となる。私は静岡と山形を選択し、3 つめの県を自分で選んでレポートを作成するという形をとっている。静岡は自分の県ということがあがるが、なぜ山形を選んだか。

| 単元名と学習内容 | 観点1 関心意欲 | 観点2 思考力・判断力 | 観点3 資料活用技能 | 観点4 知識・理解 |
|--|--|---|---|---|
| B. 地理3 都道府県の調査 62 都道府県調べオリエンテーション 63 静岡県と山形県の調査と比較 1 地形 64 気候グラフの調査と比較 2 気候 65 統計の調査と比較 3 人口 66 生産物調査と比較 4 農業と工業 67 文化調査と比較 5 交通と文化 68 都道府県レポートづくり 69・70 レポート(1) 2 ネット資料 3 インターネット 71 レポート(2) 4 図書館 72 まとめと交流 | ・コンピュータグラフィックやGoogleアトラスの映像から、都道府県規模の地域に興味を持ち、1つの地域を選んで、地図や統計や身近な生活を調べその特色をレポートにまとめることができる | ・都道府県の違いの理由を自然条件(気候地形)と人為条件(高度成長による国土の不均衡発展)の2つと結びつけて考えはじめることができる | ・以下の方法を使って地域の特色をレポートにまとめることができる。 ・地形/地図帳・地図模型・立体視地図 気候/雨温図 人口/人口ピラミッド 産業文化/統計と身近な生活資料・聞き取り | ・日本列島の基本地形、47都道府県名を知っている。 ・静岡県の基本地名、都市、地形、産業を知っている。 ・自分の選んだ県の基本的地誌を知っている。 |

上の年間計画＝評価基準にあるように、山形と静岡を比較することで、「高度成長による国土の不均衡発展」という座標軸を生徒に持たせることができるからである。3 つめの県を選ぶ際に、高度成長で恩恵を受けた太平洋ベルトとそれ以外のどちらに当てはまるかを踏まえて調べることで、その地域に対する合理的で体系的な認識を持つことができる。地理ノートは以下のように見開き 18p で構成し、3 つめの県のレポートをその最後に完成させて提出すると、1年間の地理の学びのポートフォリオとなる

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|-----------------|------------------|----------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|
| 静岡 メイン マップ | 静岡 のレ ポー | 山形 メイン マップ | 山形 レポ ート | 静岡の 地形 | 山形 の地 形 | 静岡の 気候 | 山形 の気 候 | 静岡の 人口 | 山形 の人 口 | 静岡の 農業 | 山形 の農 業 | 静岡の 工業 | 山形 の工 業 |
| 1 時間目 | 2 時間目 | 3 時間目 | 4 時間目 | 56 時間目 | 78 時間目 | 910 時間目 | | | | | | | |
| 静岡山形の交 通・文化 | 2つの 県を 比べ | 3つめの県メ インマップ | レポ ート | | | | | | | | | | |
| 11 時間目 | 12 時間目・課題 | | | | | | | | | | | | |

静岡は中部山岳地帯南斜面に4つの急流河川の狭い海岸平野であることに対し山形は最上川が貫流し広い沖積平野を持つという対称性。東書green mapで3D地図を作成
 静岡の工業が山形を圧倒していることをgoogle earth で実際の風景を見せる。google mapと併用すると、工場名から工業の内訳を確認できる。山形空港周辺のIT工場も確認できる。2時間目で国土全体の太平洋ベルトへの工業の偏在を示す。

(3) 世界の国の調査～アメリカと中国+そのときに必要な国・世界認識の座標軸を持たせる学習～

アメリカ・中国の2国を主に、ドイツ(EU)とその時に必要な国(本校ではブラジル、数年前はイラク)を加えて取り上げている。米・中2国は自然文化の差異だけでなく、経済・政治体制(資本主義と社会主義)という座標軸を持たせることを狙っている。紙数が尽きたが、この「座標軸」という考え方は、新指導要領でも絶対に失ってはいけない視角であると考えている。座標軸が1本ではだめで、多様で豊かな認識を持つおもしろさを生徒に伝える道具として、教師自身の内面の認識の目を常に磨いていきたい